



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 2008-2009



ガバナーメッセージ

“雑誌は知識と情報の宝庫”

国際ロータリー第2710地区

ガバナー 諏訪 昭 登

雑誌月間によせて

4月は120万人以上のロータリアンに貴重な情報等を提供する公式雑誌の世界的ネットワークへの認識を深め、ロータリー情報の普及をはかることが目的の月間です。以前は1月25日を含む一週間を雑誌週間としていたのを1978～79年度から4月へ移し、1983年～84年度から特別月間として「ロータリーの雑誌月間」となり現在は「雑誌月間」となっています。ロータリーの雑誌にはRIの公式機関誌「The Rotarian」(ザ・ロータリアン)と理事会承認の31の地域雑誌があり、2002年11月の理事会でそれらを総称して「Rotary World Magazine Press (ロータリー・ワールド・マガジン・プレス)」と呼ぶことにしました。

ロータリー最初のクラブのシカゴRCでは創設者ポール・ハリスは1908年頃から奉仕理念先行のクラブ運営を推進したため、一方の親睦について重きを置く連中と激しい対立が生じ、ハリスは三代目会長を途中退任せざるを得なくなりました。ロータリー理念の拡大を強く願ったハリスはペリーやシェルドンと共に、全米16RCの組織体を結成してこれにあたらうと決意しました。1910年にそれが結実して全米ロータリークラブ連合会が出来て今のRIへの道が開かれたのですが初代会

長となったハリスは、自らの気持ちを全ロータリアンに伝えるための手段としての機関誌を作りたく思いました。連合会幹事のチェスリー・ペリーは早速編集長となり1911年1月26日に第1号を「The National Rotarian」(翌年第2号でThe Rotarianと改称)と名づけて3,000部発行したのです。この発行月が特別週間の由来でしたが、現在4月が月間となっているのは単なる事務上の都合だそうです。

さて、ここでどうしても説明したいのは、第1号の記念論文「Rational Rotarianism」(合理的ロータリアニズム)のことです。ハリスは前述の様に自クラブでの誤算に反省して「私は、時々独裁者の如く振舞ったため、多くのロータリアンに迷惑をかけた」と語り、ロータリーの親睦と奉仕を上下関係でとらえたことの誤りを反省しました。そして親睦と奉仕が表裏一体であり、双方が等位置にあって“ロータリーは親睦と奉仕の調和の中に宿る”と大悟したのです。その考えを論文に書き、合理的な立場で考えたらロータリーはどういう特徴をもっているかについて語ったものです。その冒頭に「もし神の摂理によって私がどこかのコロシアムの舞台に立たされて、ロータリアン諸君と向い合い、そして瞬間のためらいも許されず、あ



らんかぎりの声で何か一言言えと告げられたら
“Toleration”「寛容」と大声で呼ぶであろう」と述べました。彼のロータリー創立以来の経験に基づいたまさに悟りと不易の言葉「寛容」であって、今でもロータリーの心情の大原則と言うものであります。

ロータリーの雑誌は二種あってその中の地域雑誌が最初に発行されたのは1915年アイルランドだと言われています。当初、「ザ・ロータリアン」のみが対象だったが1977年、サンフランシスコ規定審議会での決議「77-67」によってロータリアンは「ザ・ロータリアン」又は地域雑誌のいずれかを購読すればよいということになりました。ロータリアンの三大義務たる例会出席、会費納入そして雑誌の購読の中で最も緊張感がない対応をされているのが雑誌だという現状があります。我々日本人ロータリアンは、世界最多発行部数の地域雑誌としての「ロータリーの友」の購読義務があります。

「ロータリーの友」は1953年1月創刊であり、その命名は「主婦の友」からのヒントだったようです。

1980年(昭和55年)7月号からRIの承認した地域雑誌となった「友」は、度々のアンケートによると30%位の人しか通読及び精読されていないとすれば、大変残念且つ恥ずかしいことではないでしょうか。

「ロータリーの友」に掲載されるRI指定記事は全世界で共有すべき記事であり、他方では各クラブの基本的な活動関係の記事の多くが載り、国内のクラブや地区の活動、ロータリアンの意見な

どが盛り沢山に掲載されています。我々は「友」を読むことで部屋に居ながらにして国際大会や国際協議会の内容や光景を見聞することが出来るし、RI会長と一緒にロータリー世界を旅行し、遠く離れた場で行われる興味あるプロジェクトも知ることが出来ます。ロータリアンなのにロータリーに関する話や印刷物に、まるで拒否反応でも示すが如き姿が往々にして見えますが、今一度入会の意義を思い出して、まず「ロータリーの友」の精読から正しいロータリアンへの道を歩んで欲しいと思います。

「ロータリーの友」は世界と日本のロータリーを知ることが出来る。

「ガバナー月信」は、日本と地区のロータリーを知ることが出来る。

「クラブ会報」は地区とクラブの状況を知ることが出来る。

「ロータリーの文献」はロータリーの良さと知識を知ることが出来る。(ひろがれまわれ)

私からも申し上げます。ロータリーの雑誌は知識と情報の宝庫です。あわせて月信もよくお読み下さるよう改めてお願いしておきます。

ロータリーが、事業と専門職務に携わる人の間に世界的な親睦をつくることが出来たのは、寛容の精神のおかげですが、この寛容の精神をもってすれば、世の中に不可能なことはなくなるでしょう。

(P・ハリス)